

# ジェンダー通信

～ジェンダー平等と女性のエンパワーメント～

2016年12月28日 第12号

社会基盤・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室

この度ジェンダー平等・貧困削減推進室では、四半期毎をめぐりにニュースレターを発行することとしました。ジェンダー平等に関する情報を張り切ってお届けしたいと思います。今号は、盛りだくさんな内容となっておりますが、興味のある部分だけでも、お読み頂ければと思います。

さて、2016年は、様々なジェンダーに関するイベントが開催されていたことを、皆様ご存知でしたでしょうか？12月にはジェンダーに関する一大イベント WAW が開催され、JICA の 2 つの WAW サイドイベント開催等、盛りだくさんな一週間となりました。

それでは、ジェンダー平等に関する最近の話題を、心を込めてお届けいたします。

なお、[mundi 3月号はジェンダー特集](#)となる予定ですのでこちらもお楽しみに。



1. 北岡理事長が「国際女性会議 WAW! 2016」に登壇：途上国におけるジェンダー平等と女性のエンパワーメントの実現に向け、継続した支援の必要性を強調
2. ワークショップ in スリランカ  
「ジェンダーと多様性：災害に強いコミュニティの構築に向けて」の開催  
様々な関係者の参加を得て、防災計画へジェンダー・多様性の視点を。
3. 2016 年度能力強化研修「ジェンダー主流化」  
インフラ、民間セクター開発、気候変動等、様々な分野の人材が参加しました
4. 各セクターでのジェンダー主流化の取組みについて
5. 第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）におけるジェンダー関連イベントの開催・協力
6. 紹介コラム  
田中由美子専門員が執筆された著書が刊行されました！  
タンザニアの農村において実証データを積みあげ、アフリカ農村女性の権利向上とその変容過程を解明した1冊です。

1. 理事長が「国際女性会議 WAW! 2016」に登壇：途上国におけるジェンダー平等と女性のエンパワーメントの実現に向け、継続した支援の必要性を強調

2016年12月13日及び14日に、世界各地から政治リーダー、ビジネスリーダー、有識者を招き、女性の活躍促進のための方策を世界に発信することを目的とした「国際女性会議 WAW!」（World Assembly for Women：WAW! 2016）が都内で開催されました。

北岡伸一 JICA 理事長は、14日「平和・安全保障における女性の参画とエンパワーメント」をテーマとするハイレベル・ラウンドテーブル会合に登壇しました。同会合では、山中燐子・世界津波の日特別大使が

モデレーターを務め、ジャニン・プラスハート・オランダ国防大臣、メラニー・バービア・ジョージタウン大学女性・平和・安全保障研究所所長らが参加し、平和・安全保障分野への女性の参画、リーダーシップ発揮に向けた具体的な方策について議論しました。

冒頭、北岡理事長からアフガニスタン女性警察官支援とフィリピン・ミンダナオにおけるバンサモロ支援の事例を紹介しつつ、国際社会で取り組む価値があると考える JICA の経験として、次の3つを紹介しました。一つ目は、紛争中や紛争後、そして災害後に女性に対する様々な暴力の存在があり、それらに対応する警察官、特に女性警察官の人材育成が有効であること。二つ目は、コミュニティの貧困女性の社会的・経済的自立のために支援することが、紛争や災害からの復興過程の混沌とした社会を安定させるために有効であること。三つ目は、紛争後の安定した社会の構築や防災計画策定の際に、女性を含む多様なステークホルダーの視点を取り込むことが重要であること。また、これらの取組みを進める上で、男性を含め社会全体として、女性の役割に対して意識や理解を向上させることが重要と述べました。最後に、JICA は、平時でも、困難に直面しているときでも、途上国のジェンダー平等と女性のエンパワーメントの実現に向け、引き続き支援を実施していくことを表明しました。

関連リンク：

[国際女性会議 WAW! \(外務省サイト\)](#) 新しいウインドウで開きます

[国際女性会議 WAW! \(WAW! 2016\) ハイレベル・ラウンド・テーブルの開催! \(外務省サイト\)](#) 新しいウインドウで開きます

## 新興女性企業家フォーラムが大盛況にて終了、共に「一歩前」へ踏み出すために

国際女性会議『WAW! 2016』にあわせ、JICA は日本財団との共催で『新興女性企業家フォーラムー地域振興に貢献する女性企業家：コミュニティに根差したビジネスの展開可能性と挑戦ー』を12月15日に開催しました。渋谷ヒカリエでのイベントには学生、起業を目指す女性等、100人を超える方々が集まり、地域・コミュニティに根差したビジネスを進めるルワンダ・タイ・ラオスの女性企業家達、地方の女性の可能性を引き出す取り組みを行う南ア・マレーシアの女性企業家の話に熱心に聞き入っていました。

南アフリカのマエセラさんは、「同じ状況にあっても女性はできないと思いがちななど、男女では起業に当たっての態度が異なる。また支援する側も女性の起業支援の経験が少なく不安があり、起業家・支援者双方の自信のなさを理解する必要がある」とご自身の経験から強調していました。またモデレーターの大崎さんはそれを受けて「東北の震災後に女性の起業に初めて携わった起業コンサルタントの方がいるが、当初は不安もあったが、女性は現実的なところから手堅く事業をステップアップしていく傾向にあり、現在では積極的に女性の起業に支援しておられる」という好事例を紹介しました。

経済における女性の活躍は日本も途上国の多くも共通して抱えている課題です。このような意見交換を通じ、女性企業家が、また支援する側が「歩前」へ進むために何ができるのかを共に考え、それぞれの次の活動への学びとしていければと考えています。



## 12月12日WAW! JICA主催国際シンポジウム「平和構築と災害リスク削減におけるジェンダー主流化の推進：女性の参画とリーダーシップ発現に向けて」を開催しました！

WAW! サイド・イベントとして「平和構築と災害リスク削減におけるジェンダー主流化の推進：女性の参画とリーダーシップ発現に向けて」と題するシンポジウムを開催。JICAが昨年よりジョージタウン大学女性・平和・安全保障研究所と共同で行ってきた、平和構築と防災におけるジェンダー主流化と女性参画促進のアプローチに関する研究について、研究報告書の完成を発表するとともに、途上国の関係者を招聘して平和構築・災害リスク削減に係るパネルディスカッションを行った。

冒頭の開会式（共同研究報告書ローチング）では、加藤宏理事が2000年10月に採択された「女性・平和・安全保障に関する国連安保理決議1325号」に言及し、日本でも昨年9月に行動計画が策定され、同計画において平和構築のみならず防災の視点が盛り込まれている点が大きな特徴であると述べた。SDGsにも言及し、今後は、女性が厳しい環境下においても主体性を発揮し、対応能力・強靭性を獲得する可能性を持っているという視点から支援に取り組む必要性を強調した。

続いて、メラニー・バービア ジョージタウン大学女性・平和・安全保障研究所長は、平和構築と災害リスク削減は、クロス・カッティング・イシューであり切り離すことができないこと、女性は強靭な社会を作るために不可欠な存在であり、女性の声は平和構築や災害リスク削減分野の各プロセスに反映されなければならないと述べた。

福嶋香代子 UN Women 日本事務所長は、災害リスク削減分野においてUN Women が取り組む Gender Inequality of Risk (GiR) を説明。平和構築分野では、紛争の予防や解決に係る意思決定過程において女性の参画が担保されるよう働きかけていること、今後も1325号に基づく各国の行動計画の策定支援等に取り組んでいく旨述べた。

続く第1部では、アノージャ・セネビランテ スリランカ防災研究開発局災害管理センター減災・研究開発課長、ビマラ・パウディヤ ネパールジェンダー・社会的包摂コンサルタント、池田恵子静岡大学教授を迎え、災害リスク削減におけるジェンダー主流化の取り組みについてパネルセッションを行った。第2部では、マルティネ・ウンジアウガンダ・マラチャ県主席行政官、ライサ・ジャジュリ元フィリピンバンサモロ移行委員会メンバーらとともに、平和構築における女性のリーダーシップと参画について議論した。



（開会式の JICA・ジョージタウン大学共同研究報告書ローチングの様子：  
左から加藤宏・JICA 理事、バービア・ジョータウン大学女性・平和・安全保障  
研究所長、福嶋香代子・UN Women 日本事務所長）



（第1部 「災害リスク削減におけるジェンダー主流化の取り組み」の様子）

## 2. ワークショップ in スリランカ

「ジェンダーと多様性：災害に強いコミュニティの構築に向けて」の開催  
様々な関係者の参加を得て防災計画へジェンダー・多様性の視点を。

自然災害による被害の内容や度合いは、男女間や年齢、障害の有無などで  
違いが生じます。特に開発途上国では、自然災害による死者数は、女性が

男性よりも多く、また、被災後の失業率も女性のほうが男性よりも高くなりがちです。このように、災害はすべての人に同様の影響を与えるわけではなく、女性や子ども、高齢者、障害者など、脆弱な立場に置かれている人々がより深刻な影響を受けます<sup>i</sup>。

例えば、2004年のスマトラ沖大地震・インド洋津波のスリランカでの死者・行方不明者の65%が女性であり、19~29才に限ると79%が女性、といった調査がなされています<sup>ii</sup>。これは、地域においても防災は男性の仕事という理解がなされており、女性は災害に関する知識がなく、また、女性だけで避難の判断ができない、といったことが関係すると見られています。

2011年の東日本大震災の際にも、類似の事例が見られます。被災地では物事を決めるのは男性、という風潮があり、避難所における物資の配布を男性が行うため、女性は下着を得るのに苦労する、といった事例が数多く報告されています。また、男性は仕事、女性は家事、といった伝統的な規範が根強く、生計の復旧に関して、男性の雇用創出が優先され、女性、特に母子家庭が困難に直面する、といったことも多くみられました。

こうした経験をもとに、第3回国連防災世界会議に際して日本政府が発表した「仙台防災協力イニシアティブ」(2015年3月)では、災害予防、災害救援、復旧・復興のすべての段階に女性が参画することの重要性を指摘しており、また、女性のリーダーシップ推進のための支援をうたっています<sup>iii</sup>。

このような状況を踏まえ、JICAは、2016年3月に招聘プログラム「ジェンダー・多様性と防災リスク削減」を実施しました。同招聘プログラムに参加した研修生は日本で受けた研修の成果を自国で生かすためにアクションプランを作成しており、今回のセミナーも同アクションプランに基づいてスリランカ災害管理センターが企画したものです。

スリランカ災害管理センターは、現在策定中のスリランカ防災計画にジェンダーと多様性の視点を入れるために、女性・子ども省、JICAとともに、ワークショップ「ジェンダーと多様性：災害に強いコミュニティの構築に向けて」を2016年7月27日と28日の二日間にかけてコロンボのタージホテルで実施しました。

同ワークショップには、災害管理センターを管轄する災害管理省、女性・子ども省だけではなく、法務省、灌漑・水資源省、財務省、統計局、陸軍、海軍(救援関係)などの政府関係機関、国連国際防災戦略事務局、世界銀行、国連児童基金などの国際機関、コロンボ大学、NGOなど様々な機関・団体から初日107名(男性49名・女性58名)、2日目69名(男性30名・女性39名)が参加しました。

これは、当初災害管理センターが予想をしていた 50 人という参加者の数を大幅に上回り、ジェンダーと多様性の視点を防災に入れ込むことへのスリランカの人々の関心の高さを窺わせました。

セミナー初日の冒頭では、災害管理省大臣、女性・子ども省大臣、菅沼在スリランカ日本国大使より、ジェンダーと多様性の視点を防災に入れ込むことの重要性が述べられました。次に、ジェンダーと防災の有識者より、ジェンダーと多様性の視点を防災に入れ込むことに関する国際的な議論、スリランカでのジェンダーと防災に関する取り組み、また、JICA 地球環境部の三村次長から、日本の災害の歴史と JICA の取り組みが紹介されました。有識者のプレゼンテーションに続いて実施されたパネルディスカッションにおいてフロアから、災害の際、男性が村に行って避難を呼びかけても、ムスリムの女性は家に入ってしまうこと、そうした状況を踏まえ、女性が防災について学び、コミュニティの防災活動に取り組むことが重要、といった発言もありました。

ワークショップ 2 日目には、参加者が 5 つのグループに分かれ、現場の課題や取組を踏まえた具体的なアクションについての議論が行われました。参加者からは、政策の提言ではなく、実際に行うことができるアクションとして以下の提言なされました。

- ① 災害管理省の職員が地域に展開する女性・子ども省の職員に防災に関する訓練を実施し、地域防災に役立てる。
- ② 学校を、子どものみならず、親、地域の人々の防災啓発の場として活用する。
- ③ 防災報道に関するメディアの知識向上、倫理の確立を促し、防災情報の普及のためにメディアを活用する。
- ④ 女性退役軍人の地域防災活動への参加を検討する。

グループ・ディスカッションにおいては、災害管理省、女性・子ども省のみならず、軍（救援関係）、統計局、研究者等からも具体的かつ、積極的な発言がありました。日本では、防災に関する会議において、従来からの防災の議論に、女性や障害者といった多様な人々の視点が反映されにくいということが言われていますが、このワークショップでは、様々な立場の参加者が、それぞれの経験に基づいて発言し、ジェンダー・多様性と防災に関する課題や具体的な貢献について活発な議論が行われました。今回のワークショップは、スリランカの防災計画にジェンダーと多様性の視点を入れることに役立っただけではなく、日本における防災の議論にも示唆を与えてくれるスリランカ・日本双方の学びの場であったと言えます。



予想を大幅に上回った参加者



白熱するグループ・ディスカッションの様子

---

<sup>i</sup> UNISDR, UNDP. (2009) “Making Disaster Risk Reduction Gender Sensitive: Policy and Practical Guidelines.”

<sup>ii</sup> Sawai, Mari (2013) “Who is vulnerable during tsunami? Experiences from the Great East Japan Earthquake 2011 and the Indian Ocean Tsunami 2004,” (ESCAP Working Paper)

<sup>iii</sup> <http://www.mofa.go.jp/files/000070664.pdf> (2016/8/10)

### 3. 2016 年度能力強化研修「ジェンダー主流化」

インフラ、民間セクター間、気候変動等、様々な分野の人材が参加しました

ジェンダー平等と女性のエンパワーメントの推進は、すべての人が生きやすい世界を目指し、人間の安全保障の視点に基づく公正で持続可能な開発の実現に向けて取り組むべき重要な課題です。国連で合意された「持続可能な開発目標（SDGs）」でも、目標 5 に「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを促進する」ことが掲げられています。

多くの開発途上国においては、性別に基づく差別的な慣行や法律が残っており、女性は自らの生活に影響を及ぼす決定に男性と平等に参加する機会を十分に得られていません。貧困状態にある家庭が最初に犠牲にするのは女性や女児のニーズであることが多く、栄養不足や過重労働、教育機会の喪失、高い妊産婦死亡率といった様々な影響が女性や女児に深刻に表れています。紛争やテロ、感染症、自然災害の発生時には、そのしわ寄せの多くが女性や子どもたちに及んでおり、女性たちは厳しい状況に置かれています。

以上のような状況を改善するためには、国際協力の取り組みにおいて、開発政策や事業の計画、実施、モニタリング、評価のあらゆる段階で、ジェンダー視点に立って開発課題やニーズ、インパクトを明確にしつつ、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントに向けた取り組み（ジェンダー主流化）を強化していくことが不可欠です。

以上を踏まえ、JICA は、ジェンダー主流化の基本的な概念やアプローチ、さらに準備調査におけるジェンダー主流化のプロセスや手法を国際協力人材が理解することを目的とした能力強化研修「ジェンダー主流化」を、2016 年 12 月 7 日～9 日までの 3 日間 JICA 市ヶ谷ビルで実施しました。

能力強化研修「ジェンダー主流化」には、コンサルタント会社、NGO、大学、一般企業などからインフラ、教育、保健、民間セクター開発、農業・農村開発、気候変動、災害リスク削減等、様々な分野の事業に携わる 31 名の国際協力人材が参加し、ジェンダー主流化の基本的な概念やアプローチを学んだだけでなく、JICA 及びアジア開発銀行（ADB）の事例紹介のほかに、準備調査におけるジェンダー視点の取り込み方を考えるグループワークを行いました。

能力強化研修「ジェンダー主流化」は、2017 年度、2018 年度も実施予定ですので、JICA 事業におけるジェンダー主流化に興味がある皆様の積極的な参加をお待ちしております。

#### 4. 各セクターでのジェンダー主流化の取組みについて

2015 年度は、技術協力、無償資金協力、円借款で合計約 280 件のプロジェクトが開始され、その内、101 件について、ジェンダー平等や女性のエンパワーメントに資する活動が計画されています。ジェンダー平等・貧困削減推進室では、各プロジェクトでジェンダー主流化を進めるために、準備中のプロジェクトについてジェンダー視点での助言を行っています。また、実施中、実施後のプロジェクトをレビューし、次の案件にフィードバックされるように、様々なセクターで優良事例や教訓の取りまとめを進めています。

様々なセクターの優良事例については、以下のサイトをご覧ください。

「ナレッジサイトトップ>分野課題>ジェンダーと開発>最新 Topics 一覧>Hints&Tips」  
<http://gwweb.jica.go.jp/km/FSubject1501.nsf/B9EBD9A793E2456249256FCE001DF569/1ECB21E149CFFDF8492572F20009DA4A?OpenDocument>

#### 5. 第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）におけるジェンダー関連イベントの開催・協力

今年 8 月下旬に初めてアフリカ・ケニアで開催された第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）において、JICA は英国政府、ICRC と共催したサイドイベント「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントが平和な社会を創る」を行った他、UNDP による『アフリカ人間開発報告書～アフリカにおけるジェンダー平等と女性のエンパワーメントの促進～』発表会において北岡理事長がスピーチを行いました。

JICA、英国政府、ICRC 共催のサイドイベント「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントが平和な社会を創る」－アフリカにおける取組みの課題と可能性について議論－では、アフリカでの平和構築における女性の保護、エンパワーメント、参画、リーダーシップにむけた挑戦と可能性が議論されました。冒頭、北岡伸一 JICA 理事長は紛争が今もアフリカにおいて、多くの人々、とりわけ女性を苦しめている一方で、女性こそが国づくりの源泉となりうるとの認識を紹介し、未だ紛争の多発するアフリカにおいてこそ、国連安全保障理事会決議第 1325 号「女性・平和・安全保障」とその関連決議の実施を促進していくことが重要であると本イベント開催の

意義を強調しました。田中由美子国際協力専門員がモデレーターを務めたパネルディスカッションにおいては、3人のアフリカ人実務家から、紛争影響下において女性の直面する問題の事例が示され、また平和と社会の安定に向けた女性の貢献の可能性とそのためにアフリカ社会においてどのような変革を要するかについて、議論がなされました。最後に久保田真紀子国際協力専門員から、アジアの調査結果を踏まえたアフリカでの取組のあり方についての提案がなされ、女性の意思決定への参画とリーダーシップ強化に向けて具体的な行動取っていくことが、アフリカの平和と安定のために必要であるとの認識が共有されました。

参考：

[https://www.jica.go.jp/press/2016/ku57pq00001ufjon-att/20160831\\_06\\_j.pdf](https://www.jica.go.jp/press/2016/ku57pq00001ufjon-att/20160831_06_j.pdf)

UNDP は、TICADVI にあわせアフリカ人間開発報告書 2016 『アフリカにおけるジェンダー平等と女性のエンパワメントの促進』を発表し、8/28 に発表会が行われました。同報告書では、ジェンダー不平等がサハラ以南アフリカにもたらす社会・経済的損失、人間開発指数に与える影響について述べた上で、アフリカの女性の地位向上を阻む政治的、経済的、社会的要因を分析し、ジェンダー格差を縮めるための政策や具体的な対策を提示しています。

北岡理事長はこの発表会にゲストスピーカーとして登壇し、教育や女性の経済的エンパワメントへの JICA の取り組みについて述べた上で、アフリカの女性が能力を発揮できる環境を整え、尊厳のあるより良い暮らしを送れるために引き続き取り組んでいく決意を示しました。

参考：

<http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/presscenter/speeches/2016/08/28/AfHDR.html>



また、アフリカ連合委員会（AUC）の主催で開催された「よりよい女性の社会経済的開発」と題されたサイドイベントにおいては、TICAD V 後の女性の社会経済的開発達成に向けた貢献に関するラウンドテーブルに登壇した横浜市の林文子市長、またその後のディスカッションに登壇した田中由美子専門員より、TICAD V の横浜宣言を受け実施中の「日・アフリカビジネスウーマン交流プログラム」の概要・進捗について紹介がなされた。



## 6. 紹介コラム

田中由美子専門員が執筆された著書が刊行されました！タンザニアの農村において実証データを積みあげ、アフリカ農村女性の権利向上とその変容過程を解明した1冊です。

~~~~~

### [近代化]は女性の地位をどう変えたか、タンザニア農村のジェンダーと土地権をめぐる変遷

慣習的な土地法や既成概念に阻まれ、女性が土地を自己名義で所有・相続することは難しい。一方、タンザニアの農村では、女性の土地権が経時的に増加している。女性たちは、幾多の弊害を乗り越えつつも、押し寄せる「土地権の近代化」の波に乗り、自らの手に土地の権利を獲得してきている。女性たちの土地権の向上は貧困削減だけでなく、女性のエンパワーメントの達成にも大きく寄与してきている。

本書は農村の土地権をめぐる実証的データに基づき、アフリカ農村女性の価値観や地域共同体の新たな側面を浮き彫りにしている稀有な研究書である。「ジェンダー視点に立った国際協力」が一層求められている昨今、本書は国際協力に関わる研究者・実践者にとっての必読書である。



## 6 別添「近代化」は女性の地位をどう変えたか」.pdf

JICA 社会基盤・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室

---

※本MLの配信停止を希望の方は、お手数ですが、ジェンダー平等・貧困削減推進室

支援ユニット：[kadaishien-keizai@jica.go.jp](mailto:kadaishien-keizai@jica.go.jp)までお知らせください。

※表示の不具合がありましたら、お手数ですが、ジェンダー平等・貧困削減推進室

支援ユニット：[kadaishien-keizai@jica.go.jp](mailto:kadaishien-keizai@jica.go.jp)までお知らせください。

---